只見町ブナセンター
TEL 0241(72)8355

ヒメシロチョウ

（学名：*Leptidea amurensis*）

［鱗支羽目：シロチョウ科］

▲ヒメシロチョウのメス

▲ヒメシロチョウの求愛行動（左：オス、右：メス）
オスは触覚と口を動かしてメスに合図をする。

山肌が新緑に染まり、田植えが始まる5月、只見町ではヒメシロチョウという白く可憐なチョウが姿を現します。一見すると、一般によく知られているモンシロチョウやスジグロシロチョウと似ています。しかし、ヒメシロチョウのほうがやや小型で、前翅が細く、先端が丸いという特徴をもちます。また、飛び方にも違いがあり、モンシロチョウなどはせわしなく飛びますが、ヒメシロチョウは草の間をひらひらと緩やかに飛びます。

ヒメシロチョウは北海道、本州、九州に局地的に分布します。河川堤防沿いや河川敷、採草地など人の手によって管理されている環境を主な生息場所とします。只見町においても伊南川沿いの定期的に草刈りがなされている場所で見られます。幼虫はツルフジバカマという、つる性のマメ科植物の葉を食べて成長し、成虫も食草がある場所からあまり遠くに移動しません。そのため、ヒメシロチョウはこの植物の生育場所に強く依存します。

近年、ヒメシロチョウは生息環境となる堤防沿いの草地や草原の減少にともない、全国的に数を減らしています。いずれも、河川堤防の改修工事や草地環境の管理放棄による生息地の劣化・消失が主な原因です。一方、只見町では伊南川沿いに広く分布することから、いまだヒメシロチョウが生息できる環境が残されていると言えます。この状態を維持していくためには、今後とも生息地における積極的な環境の維持と生息状況のモニタリングを継続的に行っていく必要があります。

只見町ブナセンターからのお知らせ

企画展解説シリーズ13　（1冊500円）
「植物学者　河野昭一の世界　その生涯と只見」
只見町ブナセンター初代館長を務められた、故・河野昭一博士の経歴やその業績を紹介しております。
「ただみ・ブナと川のミュージアム」および「ふるさと館田子倉」にて販売しておりますが、郵便での販売も受け付けております。ぜひお手にとってご覧ください。

お申し込み・お問い合わせは、只見町ブナセンターまで　TEL. 0241-72-8355

※この広報紙は再生紙を使用しています
VEGETABLE OIL INK
※環境にやさしい大豆油インキを使用しています

■ 発行／只見町　〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下2591-30
■ 編集／地域創生課広報広聴係　https://www.town.tadami.lg.jp/　☎0241(82)5220